

詰まることも少なくないため、同市では、新しい大便器は今回掃除口付きを取り入れた。

最新  
現場事例  
3

# 岡山県岡山市

## 岡山中央中学校

壁材や床材、扉、便器を吟味し、  
利用も管理もしやすいトイレに

### 給水設備工事の一環で トイレ改修を実施

岡山中央中学校の本館は昭和42年の建築です。洋式便器が各階の男女トイレに二つずつあるだけで、あとは和式という3K状態でした。2階には特別支援教室や保健室がありますが、トイレ内に段差もあり、カーテンで仕切られただけの洋式便器は使いづらい状況に。財政難、技術系職員や建設業者不足でトイレ単体の改修が難しい中、岡山市教育委員会では、給水設備工事の一環として同校のトイレ改修を進めることにしました。

「限られた工期やスペースの中で、目指したのは『使いやすい』と管理がしやすい』トイレです」と語るのは、同市教育委員会事務局学校施設課の石原伸治副主査。そのため、壁面は既存の壁を残したまま貼れる不燃化粧板で、床材は汚れが付きにくいシートに。また、ブースは省スペース化のため、アークスライド方式の扉を採

用して車いすのまま入れる広さを確保。大便器は詰まりに対応できる掃除口付きにしました。

出来上がったトイレに、小林浩昭副校長は、「生徒たちは大喜びです。特に特別支援教室の生徒たちの教室のそばに使いやすいトイレができたことは大きなメリット」と言います。また、同校の杉由美子養護教諭は、「保健室そばのトイレの設置で、お腹の痛い子が安心してこまれる環境ができました」と胸をなで下ろします。さらにトイレ掃除担当の佐藤成実教諭は、「前は掃除をしてもにおいが取れなかった。今は掃除をしたらすぐきれいに。生徒はやりがいを感じ、感動するほど掃除に力が入っています」

同校では品格教育の一環として頑張った生徒を見つけると、ありがたうの気持ちを込めてカードを渡します。新しいトイレを磨く生徒の姿に感動した佐藤教諭は迷わずカードを渡しました。トイレ改修をきっかけに品格教育もさらに効果を上げそうです。



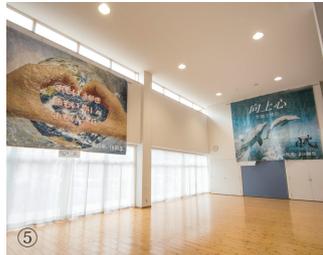
①「学校は児童生徒が安全に学習・生活できる場であり、地域コミュニティの拠点および災害時の避難場所。順次バリアフリー化(洋式便器化、段差解消、手すり設置)を進めています」(同市教育委員会事務局学校施設課 藤田光一課長補佐)の言葉通り改修されたトイレ。②2階女子トイレ。床は木目で温かみのある雰囲気。③3階男子トイレ。鏡面仕上げの壁で明るい空間に。



改修前トイレ



①②古い小便器、和式便器が並び、湿式でにおいもきつかった。③カーテンだけで仕切られていた車いす対応トイレ。



④「県内の病院で見かけ、空間を広く使える賢いドアだと感じた」(同市教育委員会 石原さん)と、アークスライド方式の扉のブースを採用。⑤同校は2校の統合でつくられた。メモリアルホールとルームには2校の思い出の品が。⑥同校のキャラクターが描かれた5種類の「ふたばちゃんカード」。クラスごとに獲得した枚数を合算し、多かったクラスは表彰される。

DATA

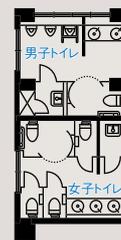
竣工年月/2015年11月  
所在地/岡山県岡山市北区  
蕃山町6-10  
生徒数/350名  
(2017年4月現在)  
施主/岡山市  
設計/日設  
施工/丸光興業



【改修前】



【改修後】



入り口ドアはつけず、視線をさえぎるように小便器やブースを配置。車いすが通れる幅も確保。